

市長杯各区対抗軟式野球大会

大会規定

大阪市軟式野球連盟

◆競技運営に関する取り決め事項

1. 大会参加届提出後は、登録選手の追加及び背番号の変更はできない。
2. 大会の参加にあたっては10名以上でなければならない。したがって、選手が10名揃わない場合は棄権となる。
3. チームは、試合開始時刻40分前には球場に到着して大会本部に到着の旨報告し、当日の打順表4部（フルネーム・フリガナを記載）を指示された時刻に提出すること。また、打順表に記載されていない選手は、登録原簿に記載されていても、その試合には出場できない。
4. ダッグアウト（ベンチ）は、組み合わせ表の若い方を一塁側とする。
5. 次の試合を行うチームは、前の試合4回終了時（または、指示された時刻）に本部席へ打順表4部を提出して攻守を決定する。打順表の控え選手欄には当日出場予定選手の氏名、背番号も記入すること。
6. 次の試合のバッテリーが、グラウンド内のブルペンを使用する場合は、本部の許可が必要であり、先発投手に限る。このとき、攻守決定後、4回終了または試合が1時間経過していること。原則として遠投は認めない。なお、捕手は、プロテクター・レガーズ・ヘルメットを着用することが望ましい。
7. 試合開始時刻になっても到着しないチーム及び選手が10名揃わないチームは、理由の如何を問わず棄権とする。
8. 試合中ダッグアウト（ベンチ）の中に入れる人員を次のとおり制限する。チームの代表者・マネージャー・スコアラー・トレーナー（有資格者）の他、参加届に記載されたユニフォームを着用した監督・選手のみ。ただし、代表者・マネージャー・スコアラー・トレーナー（有資格者）が女子の場合でも入ることは許されるが、必ずスポーティな服装・運動靴でなければならない。ダッグアウト（ベンチ）〔グラウンド含む〕内でのタバコ及びガム等は禁ずる。
9. ダッグアウト（ベンチ）の中で電子機器類（携帯電話、パソコン等）および携帯マイクを使用することは禁止する。なお、メガホンについては、1個に限り使用を認める。
10. 大会使用球は、連盟で準備する。〔(公財)全日本軟式野球連盟 公認球 ケンコーボール (M号)〕

11. グラウンド周辺でのキャッチボール・素振り・トスバッティング等は、絶対にしないこと。監督または引率者は、選手の管理に充分注意し、事故または住民の苦情が出ないように努めること。
12. 試合開始予定時刻前でも前の試合が早く終了している場合は、予定時刻を繰り上げて試合を開始する。
13. 監督・主将が試合の当日欠場した場合は、代理の選手名・背番号を当該役員・審判員に報告し、了解を得ておくこと。
14. 試合中登録された背番号以外の異なった背番号で出場していた選手が発見されたときは、直ちに没収試合として相手側チームに不戦勝ちをあたえる。
15. 試合中降雨・雷で続行か中止するかは、役員の判断で決定するもので、両チームが意見を申し出ることはいできない。
16. ストライク・ボール・セーフ・アウト・ハーフスイング・フェア・ファウル等の判定に対する抗議はできない。
17. ベースコーチまたはベンチの選手は、相手のチーム・選手を下卑に野次る(個人攻撃含む)ことを禁ずる。また、スタンドでの自チーム側の応援による野次もチームの責任とする。
18. 試合中攻撃側の次打者は、投手の準備投球が終わるまでネクスト・バッタースボックス内で待機すること。また投手が投球動作に入ったら素振り等をしてはならない。
19. 投手が捕手のサインを見るときは、必ずプレートについて見ること。
20. 打者および走者がベンチ(コーチアボックスのコーチ)とサインの交換は、遅延にならないように手際よく行うこと。
21. 場外に出たファウルボールは、攻撃側チームが必ず拾いに行くこと。
22. 試合中〔特にインプレイ中〕ダッグアウト(ベンチ)の外に出る選手が多いが、必ずベンチ内に留まること。
23. 次打者席には、必ず次の打順の打者が待機すること。
24. サングラスの着用は、大会本部の承認なしで使用できる。ただし、正しく着用すること。帽子のひさしに乘せる等で使用しないこと。
25. 小雨の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な状態の場合は、試合を強行する。
26. 大会当日降雨その他で試合不可能の場合は、当日第一試合開始予定時刻の2時間前(判断が難しい折は、この限りではない)に中止を決定する。問い合わせは、チームの代表者またはマネージャーのどちらか1名のみが必ず決められた場所へ電話等で連絡すること、連盟からは連絡しない。なお、万一連絡のつかない場合は、現地集合を原則とする。
27. 試合に勝ったチームは、帰り際、必ず大会本部で次の日程を確かめて帰ること。これに伴う間違いは、チームの責任とする。
28. グラウンドで起こった傷害・賠償事故については、一切その責任をもたない。ただし、大軟連行事保険加入チームは、保険を適用する。

29. 大会参加の際、健康保険被保険者証または共済組合員証その他これに準ずるものを持参すること。
30. 上記以外に関する事柄については、(公財) 全日本軟式野球連盟競技者必携の諸規定を準用する。
31. この規程は連盟規約・競技者規程に準ずる効力を有するものである。

◆用具及び装具の規定

大会で使用する用具・装具ユニフォームは、次に定められたもの以外は使用できない。

1. バットは、公認野球規則で定められるもののほか、次による。
 - (1) 1本の木材で作った木製のほか、竹材・木材などの接合バットであること。木製バットについては、公認制度は適用しない。
 - (2) 金属・ハイコン（接合）バットは、「J. S. B. B.」のマークを付けたものに限る。
 - (3) 少年用と表示されているものは、一般では使用できない。
2. 装具の使用は、公認野球規則で定められるもののほか、次の定めによるものを装着または使用しなければならない。
 - (1) 捕手用マスクは、連盟公認のものを使用すること。〔スロートガード付き〕とする。なお、ヘルメットと一体性のあるものは認めない。
 - (2) 捕手は、連盟公認のプロテクター、レガーズ、SGマークの付いたヘルメットを着用すること。また、試合に出場またはブルペンの捕手は、必ずファウルカップを着用すること。
 - (3) 打者・次打者・走者は、SGマークの付いた連盟公認のヘルメットを必ず着用すること。
 - (4) ベースコーチは、SGマークの付いたヘルメットを必ず着用すること。イヤラップが片側・両側についたものどちらでもよいが、片側の場合は、右・左打者ともに投手寄りにイヤラップの付いているものを使用すること。④必ず7個以上持参すること。
3. ユニフォーム、スパイク等は、次に定めるものを着用しなければならない。ユニフォームは、あまり派手でなく全体において品位を保つものでなければならない。(注) 裾幅の広い形状のパンツ「通称：ダボパン」は、スパイクに引っ掛かるなど危険が伴うので、裾を絞って着用することが望ましい。
 - (1) 両チームの監督・コーチ・選手は、全員、同色、同形、同意匠のユニフォームでなければならない。
 - (2) 袖の長さは、両袖同一で、左袖には日本字またはローマ字による「大阪」または「所属支部名」を必ず付けなければならない。また、他のものを付けてはならない。なお、右袖には、社章・商標・クラブのマスコット等を付けることは差し支えない。

- (3)ユニフォームの背中に選手名を付ける場合は、全員が背番号の上にローマ字で姓のみとする。ただし、同姓の者がいる場合、名の頭文字を入れてもよい。
 - (4)胸のチーム名は、日本字またはローマ字で表示し、チーム名の代わりにマークを付けることができる。ただし、全員統一すること。
 - (5)アンダーシャツは、全員、同色でなければならない。ただし、袖の長短は問わないが、必ず着用していることがハッキリわかること。
 - (6)背番号は、監督30番、主将10番、コーチ29番・28番、選手は、0番から99番までとし、参加申込書に記載されている選手は全員付けなければならない。
 - (7)背番号の規格は、算用数字で次の標準によること。最小幅15.2センチ以上、最大：字の長さ21センチ、字の巾16cm、字の太さ4cm（二重のものは外側とする）
 - (8)スパイクの色は、自由とする。ただし、当連盟では、両足は全員、同色、同形、同意匠とする。なお、ベースボールシューズであること。
 - (9)アンダーシャツ（全員、同色のもの。ただし、袖の長短は問わないが、必ず着用していることがハッキリわかること）
 - (10) 帽子・ストッキング（全員、同色、同形、同意匠のもの）
 - (11) 投手用グラブ（本体と異なる色の縫い糸・しめひもについては、公認野球規則1・15の通りとする。ただし、縫い糸・しめひもの色がシルバー、白色、灰色、光沢のある色、目立つ色以外であれば、特に制限を定めない。
投手用グラブに個人名の刺繍を入れる場合、その色はグラブ本体と同色とし、その場合は親指の付け根部分1箇所に限る。なお、その大きさについては、最長でもグラブの親指部分の半分を超えないものとする。
4. 木製バットの色については、木目のみえる程度の着色したものは使用を認める。
 5. グラウンド内に試合用具以外のものを持ち込んではいない。
例) 素振り用の鉄棒、バットリング等。
 6. 手袋の着用は投手以外認める。（攻撃側の打者・走者も着用することを許される。なお、打者が走者となった時の手袋の交換は、一塁は認めるが二塁・三塁は認めない）
 7. 義務付けられた装具を着用していないチームは、没収試合とすることがある。選手個人の折は、同一のものを着用するまで出場させない。

◆競技に関する特別規則

1. 試合は、7回戦で1時間30分(90分)の時間制を採用する。ただし、1時間25分で新しいイニングへ入らない。同点の場合は、抽選で勝敗を決する。なお、後攻チームが勝っている折、裏の攻撃中にタイムアップとなったときは第三アウト前でもゲームセットとする。
④制限時間を過ぎても、5回を完了するまでは続行する。
 2. 得点差によるコールドゲームの採用は、5回以降7点差とする。
 3. 延長戦は、制限時間内であっても9回で打ち切り選手9名により抽選で5名勝った方のチームを抽選勝ちとする。5回終了後、日没または降雨及び球場の使用許可時刻を過ぎた場合も同点のときは抽選とする。ただし、得点差がある場合はコールドゲームとなる。
 4. 決勝戦においても7回戦とする、ただし時間は2時間とする。延長は9回まで行う、なお同点の場合は抽選で勝敗を決する。
 5. 大会日程の都合上、天候状態もしくはこれに類する理由で5回終了前に中止する場合は、得点の有無を問わずノーゲームとせず、特別継続試合にすることもできる。
 6. 試合中にトラブルの生じた場合には、その試合担当者の審判員が責任をもって処理するのはもちろんであるが、審判員が裁定に苦しむとき、あるいは当該審判員のカウントおよびルールの間違いについては、控え審判員および本部役員がその協議の解決にあたることことができる。そしてこの裁定は最終的なものとする。
 7. 抗議のできるものは、監督・主将または当該プレイヤーの1名以内とする。
 8. 打者がみだりにバッタースボックスをはずした場合、球審はタイムをかけず投手の投球に対し、正規のカウントのボール・ストライクを宣告する。
 9. タイムの制限
 - (1) 試合中に選手がスパイクのひもを結びなおすためのタイムは認めない。
 - (2) タイムは1分間を限度とする。ただし、審判員が認めたときはこの限りではない。試合中内野手間の送球があまり長いときは審判員が注意を与える。
 - (3) 捕手または内野手が1試合に「タイム」を要求して投手のところへ行ける回数は、(3度以内、延長戦=1イニングスに1度)とする。
- [注：1] タイムを要求しないまま延長戦に入っても、持ち越しはできない。
- [注：2] 監督またはコーチがプレイヤーとして出場している場合は、投手のところに行くことの制限はないが、協議があまりに長引けば注意を与える。なお、注意しても協議をやめないか、

または投手のところへ行く数が度を越すと、投手のところへ1度行ったことにして通告する。

[注：3] 少し近づいて声をかけるものなどは含まないが、頻度や距離的なことは審判員が常識的に判断する。

10. 走者が盗塁を企てたとき、最近とくに走塁を助けようとする行為が目立つので、このような行為は非スポーツマン的であり、走者がアウトになっても厳重に注意する。打者は、いかなる形であろうとも走者を助けようとする行為をしてはならない。行った場合は、ペナルティーを適用する。
11. 《12秒ルール》 走者のいないとき、投手はボールを受けた後【12秒以内】に打者に投球しなければならない。違反した場合は、球審はボールを宣告する。
12. 《オブストラクションの厳格適用》 捕手または野手があらかじめ塁線上およびその延長上の塁上に位置して（足または脚を置いて）送球を待つことを禁ずる。違反した場合は、オブストラクションとなる。たとえば、捕手がボールを持たないで塁線上に位置することは、アンフェアなプレイである、ことおよび非常に危険なプレイであることから、オブストラクションを厳格に適用する。